

行 政 報 告

(令和7年12月・第4回 議会定例会)

皆様、おはようございます。

令和7年、議会第4回定例会を、召集申し上げたところ、議員各位には、何かとお忙しい中、ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

定例会の開会にあたり、ごあいさつを兼ね行政諸般の報告をさせていただき、議員各位、並びに町民の皆様のご理解と、ご協力をお願い申し上げます。

さて、令和7年10月に発表された、国の月例^{げつれいけいざい}経済報告によると、我が国の経済の基調判断は、米^{べい}国の通商政策による影響が、自動車産業を中心にみられるものの、景気は緩やかに回復している。個人消費は持ち直しの動きがみられ、設備投資は緩やかに持ち直している一方、企業収益は、おおむね横ばいとなっているとしております。

また、先行きについては雇用、所得環境の改善や、各種政策の効果が、緩やかな回復を支えると期待されるが、米^{べい}国の

通商政策の影響による、景気の下振れリスクや、物価上昇の継続が、個人消費に及ぼす影響など、景気を下押しするリスクもあるとしており、物価高騰対策を早急に講じるとともに、日本経済の強さを取り戻すため、「総合経済対策」を早急に策定するとしております。

町といたしましても、国の動向を注視しつつ、重要課題や予算編成の方向性に沿って、限りある財源を、より効果的、効率的に配分するよう努め、町民生活の安定確保に、資することができるよう、努めてまいります。

それでは、行政諸般の報告をさせていただきます。

まず、地域公共交通「ノッカルひがしいず」の運行状況ですが、現在、一般ドライバー１３名、役場職員２９名の、計４２名体制であり、今年度の実績は、１０月末までの７か月間で６８４ライド、１千２１人となりました。今後も、一般ドライバーの確保に努め、どなたにとっても、快適な移動を支えるサービスが提供できるよう、取り組んでまいります。

次に、地域おこし協力隊についてですが、10月から新たに2名が着任いたしました。現在、岡田^{おかだ}叶美^{かなみ}さんには「雛のつるし飾り文化推進事業」を、鈴木^{すずき}貴恵^{たかえ}さんには、「観光、文化イノベーション推進事業」を、それぞれ、担当していただいております。

さらに、12月からは、新たに、宮本^{みやもと}成就^{よしなり}さんが着任し、「よりみち135利活用事業」を、担当していただくことになっております。

これにより、当町で活動する地域おこし協力隊は、11人となりました。隊員の能力や経験を活かし、課題解決と地域振興を一層推進してまいります。

11月6日、地域おこし協力隊が本年度、第1回目の活動報告会を保健福祉センターで開催しました。「協力隊の活動報告」「トークセッション」及び「参加者との交流」の三部構成で実施し、住民の皆さまに、活動内容を広く知っていただく良い機会となりました。

次に、主要な会議体として、10月9日、10日に「町長と語ろう、まちづくりの会」を開催し、両日で16人の方にご参加いただきました。子育てや町民の幸せの在り方など、今後の「よりみち135」や、グランドデザインの作成にあたり、大変、参考となるご意見を賜りました。

当町ファンクラブ「うちっち」の事業として、11月9日に、「東伊豆町うちっち交流会2025」を開催しました。22人の皆さまにご参加いただき、ファン同士の交流を深めることができました。今後のまちづくりにおいて、当町を好きになってくださるファンを増やし、関係人口の創出に一層、力を入れてまいります。

ワーケーション推進事業として、10月11日に「ゴルフワーケーション」を実施し、町外から14人の方に、ご参加いただきました。町がNPO法人ローカル・デザイン・ネットワークに委託して実施したもので、当町でのテレワークの実践に加え、町民12人のメンバーと、ゴルフを通じて交流を深めました。

また、11月14日に東伊豆町で活躍する女性をパネリストに迎え、女性活躍のヒントを探る企画、「女性活躍トークイベント、イン、東伊豆」を、イースト・ドックで開催しました。女性たちの思いや活動の原動力を共有し、住民、企業、行政及び都市部ワーカーの交流を促進することで、女性活躍を通じた、地域の未来を共に考える機会としてまいります。

次に、税務関係ですが、所得税及び個人住民税の定額減税に伴う不足額給付金は、対象者1千507人に計4千240万円を給付し、11月末をもって終了いたしました。

毎年11月、12月は県下一斉に「滞納整理強化月間」となっており、広報誌等により、納税啓発に努めております。町税の滞納者に対し、文書による一斉催告^{いっせいさいこく}を実施し、納税を促すとともに、財産調査に基づく差押などの滞納処分を強化しており、引き続き、町民の信頼^{こた}に応える納税秩序の維持と、町政運営における貴重な自主財源確保に努めてまいります。

11月11日から17日までの間、「税を考える週間」の

一環として、「税に関する作品」を募集したところ、税に関する習字55点、作文58点を応募いただきました。このうち、伊豆下田^{のうぜいちよちく}納税貯蓄組合連合会により、表彰された作品、6点を役場ロビーに展示し、納税意識の高揚や滞納抑止に、努めたところでございます。ご協力をいただきました児童、生徒をはじめ、学校関係者の皆様には、改めて感謝を申し上げます。

次に、健康づくり関係ですが、今年度もインフルエンザが流行する時期を迎えました。今年は、例年より早い^{りゅうこう い}流行入りと伺っております。住民の皆様方には、予防措置を講じて、感染が^{まんえん}蔓延しないよう、心掛けていただきたいと思います。インフルエンザをはじめとする感染症の予防には、日常生活での予防や、ワクチン接種を受けることが重要であります。町民の皆様には、咳エチケットや手洗いの^{れいこう}励行と、感染予防、重症化予防の観点から、予防接種の検討をお願いいたします。

次に、健康イベント関係ですが、11月23日に「医療と健康を考えるシンポジウム」を白田保健センターで開催し、

私も「健康格差を減らす東伊豆町の取り組み」について発表させていただきました。今回、56名の方にご参加いただき、「健康寿命を延ばし、誰もが安心して暮らせる東伊豆」を目指して、地域の皆さんと力を合わせ、今後の健康づくりを考える、きっかけづくりになったと考えております。

次に、住民福祉関係ですが、令和6年度の繰越明許費^{くりこしめいきょひ}にて予算措置させていただきました「令和6年度、東伊豆町子ども支援、給付金支給事業」につきましては、0歳児から17歳までの子どもに対して、1人あたり2万円を養育者に支給し、10月8日に完了いたしました。実績は、459世帯の759人に対し、合計1千518万円を給付いたしました。

また、町では高齢者の方々に対し、感謝と長寿をお祝いするため、88歳の米寿を迎えられる方に1万円、100歳を迎えられた方に5万円の敬老祝い金を贈呈しております。

本年度は、88歳を迎えられる方が115名、めでたく、100歳を迎えられた方が2名となっております。

今後も、ご高齢の皆様には、健康に留意され、益々のご健勝をお祈り申し上げます。

次に、観光関係ですが、今年3月から9月までの入湯客数は、39万5千31人で、前年対比430人ほどの減となりました。昨年が好調であったため、宿泊が伸びているとは言えない状況ではありますが、引き続き、好調のまま推移している状況と判断しております。

特に、カムチャツカ半島付近で、7月30日に発生した地震では、津波警報が発表され、お客様は来町することができず、翌日からのキャンセルも発生するなど、観光関係者には大きな痛手となりました。宿泊者数についても、7月は前年対比で4千人、8%ほどの減となり多大な影響を受けました。

次に、イベント関係ですが、9月28日には、熱川温泉にて「石曳いしびき道灌どうかんまつり」が開催され、来場者は1千300人を数えるなど、盛況となりました。当日は、大島町長もイベントに、参加してくださり、私と一緒に御石曳おいしびきを体験していただきました。

曳手^{ひきて}も250人が参加し、一斉に息を合わせて曳^ひく、一体感を感じるとともに、皆様の熱気が、築城石^{ちくじょうせき}を動かす様は、感動的でした。

10月4日には、稲取温泉において「どんつく祭り」が開催され、来場者は2千500人に上りました。当日は、姉妹都市である長野県岡谷市^{ながのけんおかやし}の方々をお招きし、当町の関係者と交流を深めていただきました。また、「お神輿^{みこし}や芸者踊り」、「どん太鼓」も見学していただき「天下の奇祭^{きさい}」と呼ばれる同イベントを堪能されたものと存じます。

どちらのイベントも、インバウンドのお客様が多数訪れ、日本らしいイベントを心から楽しんでいる様子が見られました。今後も、海外への宣伝を効果的に行うことにより、さらに来遊者を増やすことができるのではと考えております。

10月12日には、今年で3回目となる「渋谷温泉^{しぶや}」イベントが、東京都の渋谷ストリームにて開催されました。今年から、西伊豆町と河津町にも参加していただき、それぞれの

温泉を持ち込んだ足湯体験では、316名の方が体験され、大盛況となりました。

会場には2万人の方が訪れ、トークイベントやクイズ大会、ヨガイベントなども実施いたしました。いずれも参加枠を大幅に超える申し込みがあり、見込み以上の成果があったと言えます。大階段に飾り付けた「雛段と雛のつるし飾り」は、多くの方が写真を撮っており、特にインバウンドの方々には大人気でした。SNS等での拡散により、世界中に広まっていくことを期待しております。

10月30日から11月3日までの間、観光協会及び旅館組合関係者とともに台湾を訪問し、「商店街産業国際フォーラム」及び「台北温泉まつり」への参加と、ブースでの観光宣伝を実施してまいりました。また、台湾にてSDGsやパリ協定の精神に則って設立され、企業などに認定を与えている組織である「財団法人台湾永続エネルギー研究基金会」通称「タイセ」と、持続可能な協力に関する覚書の調印をしてまいりました。

日本の自治体としては初のことであり、台湾との関係性が益々強化されるものと考えております。

町では、台湾民宿協会の代表者や有名な観光地である九份の民宿協会代表の方とも交流を深めており、今回、町内の旅館組合、関係者の皆様にも同行いただいたことから、今後の繋がりに期待をしているところです。

11月16日に開催された町民ゴルフ大会は、91名の方が参加されました。近年は、別荘地やマンションに居住されている方々の参加も多く、町民との交流の場としても、良い効果が生まれていると感じています。町外の方であっても、ふるさと納税をしていただいた方の参加を受け入れておりますので、東伊豆町を好きになっていただいた方々との交流が盛んになり、町の活性化につながっていけばと望んでおります。

10月30日から12月1日までの間、稲取細野高原にて「秋のすすき鑑賞会」が開催されました。

平日のお客様があまり伸びていないようでしたが、土日を中心に多くの方に楽しんでいただいたとの報告を受けております。今年は、新たな取り組みとして「チャンバラ合戦」を実施したとのことで、草原という、まさにチャンバラにふさわしいシチュエーションの中、参加した方々は大変満足されたようです。

細野高原の活用は、「細野高原みらい協議会」にて検討されておりますので、会場へのアクセスを含め、訪れやすいような取り組みや、興味を持ってもらえる仕組みなども検討していただければと存じます。

11月8日、9日には、「伊豆稲取キンメマラソン実行委員会」のメンバーが中心となり、台湾の田中地区で開催された「台湾米倉田中マラソン」に出向き東伊豆町のPRを実施いたしました。昨年も出向いていただきましたが、来年の、「キンメマラソン」招待券や、記念品を提供し、今後の交流について話題を提供していただいたようでした。これまでも台湾からの「キンメマラソン」参加ツアーの申し出があったため、今後の展開に期待しているところです。

次に農業関係ですが、10月16日から22日まで、明治大学生8名が「ファームステイ実習」をするため、来町いたしました。2名ずつ4箇所の農家にてミカン、いちご、野菜などの農作業に従事し、体験実習をしていきました。

参加した学生は、慣れない農作業に苦戦しながらも、笑顔で取り組んでいたということで、農業への関心がさらに高まったようでした。明治大学からも感謝の言葉をいただいたところです。

次に商工関係ですが、毎回好評をいただいている地域商品券は、今年も6千冊を用意して販売する予定で計画を立てております。しかしながら、国からの物価、経済対策の交付金により、より一層の支援の充実ができないか検討もしていく所存ですので、実施期間は年度末から、年度初めとなる可能性もあることをご承知おきいただきたいと存じます。いずれにしても、物価高騰により生活に不安のある方々や、町内事業者の皆様に喜んでいただけるよう取り組んで参りますのでご理解いただければ幸いです。

ふるさと納税関係では、今年度の当初予算の歳入は５億３千万円としておりましたが、今回の補正予算で５千万円を追加し、５億８千万円と見込んでおります。

９月末で、ポータルサイトのポイント付与が、廃止されるとの報道に伴う駆け込み寄附もあり、４月から９月までの半年間の寄附額は過去最高となりました。

また、寄附額を確保する取組の一つとして、１１月８日、９日に横浜市の「パシフィコ横浜」において開催された「ふるさと納税大感謝祭」に参加しております。全国から１６０の自治体に参加し、来場者数も過去最大の１万７千６１８人という規模で開催され、当町では寄附者を招待しての交流や返礼品販売などを行い、町のＰＲを図っております。

その他「浅草ＰＲフェスタ」「伊豆うまいもん市」「昭和女子大コスモス祭」「静岡夢逸品市場」など、東京都や横浜市、浦和市、静岡市において東伊豆町をＰＲしてまいりました。行政としても積極的に町の知名度を上げ、少しでも東伊豆町に貢献できればと考えております。

次に、建設整備関係ですが、法定で点検・修繕が義務付けされた、橋りょう補修につきましては、3橋の工事及び、2橋の設計を実施しており、今後、2橋の工事入札を予定しております。計画に沿って事業を推進し、安全確保に取り組んでまいります。

11月17日には、伊豆縦貫自動車道の建設促進と半島振興対策の促進や、財源確保に向けて、関係省庁や国会議員に対し、要望活動を行ってまいりました。

地籍調査事業ちせきちょうさにつきましては、片瀬Ⅲ地区として、片瀬区町内会の一部であります0.05平方キロメートルについて、10月13日と14日に説明会を開催し、11月17日から21日にかけて、土地所有者の方々との境界立会を実施いたしました。ご協力いただいた皆様に、お礼申し上げますと共に、今後も事業の完了に向けて取り組んでまいります。

次に、防災関係ですが、9月27日に、令和7年度東伊豆町総合防災訓練を実施いたしました。

今年度は、役場庁舎が被災することを想定し、大津波警報の発表とともに、職員の稲取小学校への一斉避難、稲取小学校のグラウンドにある、器具倉庫2階を利用した、災害対策本部運営訓練、稲取小学校体育館において、避難所の設営訓練を行いました。

各自主防災組織では、町災害対策本部との通信訓練を行ったほか、陸上自衛隊、駿東伊豆消防本部、東伊豆消防署、静岡県看護協会、賀茂地区支部にもご協力をいただき、高校生を含む住民など、1千139人が参加し、様々な訓練を実施いたしました。住民一人ひとりが自主的に行動できるよう、積極的な訓練への参加、家庭での防災対策の推進をお願いいたします。

次に消防関係になりますが、9月7日に片瀬・白田地区において、駿東伊豆消防本部、東伊豆消防署、伊東市消防団と合同で、火災現場における消防署隊及び伊東市消防団との連携強化を目的とした消火訓練を実施し、155人が参加いたしました。

また、11月9日から15日まで、秋の全国火災予防運動に伴い、11月13日に、ひがしいず幼稚園、東伊豆認定こども園の園児を対象として、火災予防の啓蒙^{けいもう}活動を実施しました。当日は、消防ポンプ自動車の展示、女性消防団員による火災予防のおはなしの後、啓発^{けいはつ}用の風船を、配布しました。さらに、11月12日には東伊豆消防署において、稲取地区、消防団員がロープ結索^{けっさく}訓練、13日には奈良本地内の防火貯水槽を使用し、熱川地区消防団員が、可搬^{かはん}ポンプ操作訓練をそれぞれ実施いたしました。消防団員の皆様には、日頃より有事に備え、訓練^{はげ}に励んでいただいていることに対し、感謝申し上げます。

次に交通安全関係では、9月21日から30日まで、秋の全国交通安全運動の実施に伴い、9月20日に町内主要交差点にて、街頭指導を実施いたしました。また、期間中は、交通安全協会、下田地区支部主催のもと、22日にマックスバリュ稲取店、25日に稲取高校下の国道135号にて、啓発活動を実施いたしました。今後も、12月15日から31日まで、年末の交通安全県民運動が実施されます。

年末の慌^{あわ}ただしい時期となりますが、町民の皆様方には、
交通ルール^{じゅんしゅ}の遵守と交通マナーの実践を心がけるようお願い
いたします。

次に、教育関係のうち、学校教育関係ですが、各種行事、
及び体育、文化活動につきまして、9月には、稲取・熱川の
両小学校の修学旅行が行われ、小学6年生が1泊2日の日程
で東京方面を訪れました。

日本の政治、経済、文化の中心地である、東京の施設や歴
史ある場所を見学することにより、教科書で学んだことを体
感し、文化や歴史に対する見方や、考え方を深めてくれたも
のと思います。

9月26日には、今年度から新たな取り組みとして、稲
取・熱川両中学校の合同音楽発表会が開催されました。両校
の生徒が、日頃の音楽学習の成果を発表すると共に、互いの
合唱を聴き合い、交流を深める貴重な機会となりました。

10月5日には、ひがしいず幼稚園が「運動会」を、10月18日には、熱川・稲取の両中学校がそれぞれ「体育祭、運動会」を実施いたしました。

「ひがしいず幼稚園・運動会」では、園庭を緑一面、芝生^{しばふ}が覆^{おお}う中、うまく登れない棒登^{ぼうのぼ}りに、諦^{あきら}めず挑戦する園児の懸命な姿を会場の全員で応援するなど、園児や保護者の皆様とともに、笑顔あふれる楽しいひと時を過ごすことができました。

次に、社会教育関係では、11月8日、9日、「第48回・町民文化祭」が開催されました。稲取小学校の体育館を会場に、展示の部34団体、舞台の部11団体が参加、2日間で延べ1千284人の町民の皆様が来場し、作品の鑑賞や舞台を楽しんでいただくことができました。

準備段階からご尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

11月15日、「第41回青少年主張発表大会」を開催し、小学生2名、中学生2名及び高校生3名の、計7名の児童・生徒から、学校、友人、地域社会などで、問題や話題となっていること、将来の夢などをテーマに、日頃考えていることを自由に取り上げ、建設的な意見や課題解決のための提言など、主張発表していただきました。役場職員にも、発表内容の情報共有を図り、発表者の思いを受け取って、町政に活かしていければと思う次第でございます。

今週末12月6日、「第26回・静岡県市町^{しちょう}対抗駅伝競走大会」が、静岡市で開催されます。駅伝参加にあたっては、8月から練習を開始し、11月20日に「結団式^{けつだん}」を行いました。当日は、チームが一丸となって臨み、東伊豆町の代表として精一杯、タスキをつないでくれるものと思います。

年明けの1月1日、「元旦マラソン&ウォーキング」を計画しております。このイベントは「走り初め^ぞ」として、健康と笑顔で新しい年をスタートする恒例行事となっておりますので、町民の皆様の参加を、心からお待ちしております。

毎年1月に開催しております「東伊豆町二十^{にじっさい}祭」は、本年度、令和8年1月11日に開催いたします。多くの若者が、進学や就職による経験を積み、視野を広め、周囲への感謝や将来設計を深めた、この時期に、開催することとしており、二十歳の門出を祝う意義深い行事であると捉えております。

次に水道事業関係ですが、水道料金、第4期分までの現年度調定額^{げんねんどちょうていがく}は、前年対比、約460万円、1.6%の増となりました。増になった要因としましては、折からの猛暑により使用水量が増えたことが考えられます。

一方で、費用の中でも構成比率の高い動力費、電気料金につきましても、売上に比例し、増加していることや、昨今の物価高により厳しい経営状態が続いております。

今後も動向を注視しながら事業を運営し、継続的に安全、安心な水の供給を行っていけるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、師走^{しわす}の慌^{あわ}ただしい時期を迎えております。日一日と寒さも厳しくなりますので、町民並びに議員各位におかれましては、健康に十分留意されまして、ますますご活躍くださいますようお願いいたしまして、行政諸般^{しよはん}の報告と、させていただきます。